

セルフケアのための主な小児ぜん息治療薬

この表は『小児気管支喘息 治療・管理ガイドライン2012』をもとに作成しました。あくまでも目安のひとつとしてご活用ください。実際の治療では年齢や症状によって使用されない薬があるなど、必ずしも表と当てはまらない場合がありますので、薬の使用に関しては必ず医師に相談してください。

主な長期管理薬(コントローラー)……気管支の状態を良くし、発作がおこらないように長期間予防的に使う薬

薬の役割	気管支の炎症をおさえる薬	気管支の炎症をおさえるとともに気管支を広げる薬	気管支を広げる薬	新たなぜん息発作がおきるのをおさえる薬				
薬の種類	吸入ステロイド薬	吸入ステロイド薬 / 長時間作用性β ₂ 刺激薬配合剤	気管支拡張薬 長時間作用性β ₂ 刺激薬	抗アレルギー薬				
効能	気管支に直接到達して、炎症をおさえる。	1剤で、気管支の炎症をおさえる効果と気管支を広げる効果がある。	交感神経を刺激して、気管支を広げる。12時間以上効果が持続する。(吸入ステロイド薬と併用することが基本)	気管支の収縮を引き起こす化学伝達物質が肥満細胞から放出されるのをおさえる。				
用法	吸入	吸入	吸入・貼付 経口	経口				
主な副作用	のどの刺激による咳、声がれ、口腔カンジタ症など(一般的な使用量では全身性の副作用はほとんどなく、吸入後のうがいや水分摂取で多くの場合は予防可能である。)	声がれ、口腔カンジタ症、咽喉頭部への刺激感、心悸亢進(ドキドキする)など。	はきけ、嘔吐などの胃腸症状、興奮、食欲不振、下痢、不眠、けいれんなど。	発疹、下痢・腹痛、肝機能障害など。				
商品名	<ul style="list-style-type: none"> ■オルベスコ ■フルタイド ■キュバール ■パルミコート 	<ul style="list-style-type: none"> ■アドエア 	<ul style="list-style-type: none"> ■セレベント ■テオドール ■ホクナリン ■テオロング 	<ul style="list-style-type: none"> ■オノン ■キプレス ■シングレア 	<ul style="list-style-type: none"> ■インタール ■ロメット 	<ul style="list-style-type: none"> ■リザベン ■アレギサル ■ペミラストン 	<ul style="list-style-type: none"> ■アイピーディ ■ニボラジン 	<ul style="list-style-type: none"> ■セルテクト ■ゼスラン ■ザジテン